



**第五十五回全国子ども会育成中央会議・研究大会兼第五十四回関東甲信越静地区子ども会育成研究協議会報告**  
副会長 出村 豊

令和四年十月二十九日～三十一日の三日間に亘って第五十五回全国子ども会育成中央会議・研究大会と合同で第五十四回関東甲信越静地区子ども会育成研究協議会が長野市で開催されました。全国からの参加者は約四百四十名で新潟県からは十二名でした。

開会式では、全国子ども会連合会の美田耕一郎会長が「コロナ蔓延の三年間は子ども会で重要な体験活動ができず大変辛い期間だった。今後も行政と連携を図りながら、基本である単位子ども会がスムーズに活動できるように支援をしていきたい。」との挨拶がありました。その後来賓の文部科学省室長、長野県、長野市の方々から祝辞をいただきました。その後表彰式および、感謝状の授与が行われ、新潟県か



らは、妙高市の林のみりさんが受賞されました。

引き続き、記念講演が行われ信州大学法学部特任教授の中島理恵先生から「SDGsと子どもたちの未来」というテーマでお話をいただきました。先生は、環境省に勤務後、長野県の副知事として出向されるなど、国や県で子育て支援やSDGs（持続可能な開発目標）に関わってきた経験を生かして、現在は長野県富士見町に移住し、農山村で子育てを行いながらSDGsを実践している方です。お話の中で「子ども会はSDGs実践の場、自然体験が子どもの自己肯定感に繋がっている。自然と調和した持続可能な地域づくりが子どもたちの生きる力を育む。子どもの貧困対策のため地域で子どもを見守るNPOを立ち上げ子ども、女性、若者との交流の場を提供している。」など行政、地域と一体となった活動はこれからの子ども会活動に大変参考となる内容でした。

二日目は分散会でした。参加した各分散会は八名で三つの共通テーマ①「デジタル化された子ども達の遊び方の変化と対応②地域から見た子ども会活動のあり方と会員増加への方策③子ども会の育成者、リーダーを育てるために」を順番に話し合い議論を深めました。私の班のファシリテーターは長野県大町市の子ども会会長で、行政と連携して地域ぐるみで子ども会活動

を行っており、特にジュニア・リーダーの育成に実績を持っている方で、色々とお話が聞けて大変勉強になりました。

最終日は、分散会の報告、続いて関東甲信越静地区子ども会育成研究協議会の閉会式が行われ、来年の開催県である埼玉県に大会旗が引き継がれました。

最後に、コロナ禍で三年ぶりに全国から大勢の参加者を集める大会を、しかも全国と関東ブロックを同時に開催した長野県子ども会連合会の皆様には大変ご苦勞様でした。関係者の皆様に対し心より敬意と御礼を申し上げます。

**今後の予定**

- 第二回理事会（長岡市中央公民館・さいわいプラザ）  
十二月四日（日）
- 関プロ会長・事務担当者会議（全子連ビル）  
一月十三日（金）～十四日（土）
- 安全啓発中級指導者養成講習会②（さいたま市文化センター）  
一月十四日（土）～十五日（日）
- 第三回理事会（新潟市東区プラザ）  
三月五日（日）
- 県子連だより第一四〇号発行  
三月十日（金）
- 第三回JL中級研修会（長岡市中央公民館・さいわいプラザ）  
三月十九日（日）



# 社会全体で子どもを育てる

新潟県教育庁下越教育事務所

社会教育課長 鈴木 智博



新潟県ハコ学校では、「コミュニティ・スクール」(以下CS)の導入が約八割(全国約四十九%)と積極的に導入されています。また、ト越管内でも、CSの導入が七市町村あり、その他の市町村でも類似の仕組みで取り組んでいます。学校を核とした地域づくりの実現のために、CSと地域学校連携活動を一体的に進めることが必要です。

地域学校協働本部は、幅広い地域住民や団体等がゆるやかなネットワークで形成されています。子ども会はその活動団体の一つとして、地域行事・イベント・ボランティア活動等への参加を通して、学校との連携・協働の取組を一層推進されることを願っています。地域の人材や資源を活用した学校での特色ある取組を紹介いたします。

- ・県内で一番多くのカーネーション農家が点在する「新発田市加治川地区地域探検」
  - ・村上市上海府地区の伝統漁法である「たごだし漁体験」
  - ・聖籠町単地地区の住民が使用しなくなった釣り竿を譲り受けての「海釣り体験」
- さらなる活動の充実のため、社会

教育課としても、各市町村の地域との連携・協働についての状況を把握し、各市町村に必要な情報を提供するなどの支援をさせていただきま

す。子ども達は、活動を通して、成功体験や失敗体験を積み重ね、学びを深めていきます。また、多世代との交流からコミュニケーション力を育み、人との関わり方を学んでいきます。さらに、大人にとっても、活動に参画することによって、地域住民との繋がりを深めるよい機会にもなります。

昨今、感染症の影響で心身が不安定な子どもが増加しています。子どもの安定した心身を育てるために「豊かな体験活動の充実」が大切です。今後も、様々な活動に多くの大人を巻き込むことで、当事者意識が育まれ、社会全体で子どもを育てる」という機運が高まることを期待しています。



# 令和四年度 関ブ口安全啓発中級指導者養成講習会

長岡市 柳澤 由紀子

- ・期 口 令和四年七月九日(土)・十日(日)
- ・会 場 一日目：長岡さいわいプラザ  
二日目：アオーレ長岡
- ・講 師 中川輝大(茨城県)  
武士保昭司(新潟県)  
杉浦隆(全子連)
- ・参加者 県外三名 県内八名 計九名

子ども会KYTを基本とした安全普及啓発活動ができる「子ども会安全啓発初級指導者」を養成する中級指導者を養成することです。



令和四年七月九日・十日の二日間に渡り、地元長岡市で開催されました。一日目さいわいプラザ、二日目アオーレ長岡を会場に行われ、受講者は九名でした。(新潟六名・茨城・静岡・栃木各一名)

本講習会の目的は、「子ども会安全啓発初級講習会」を講師として担当し、地域子ども会市町村子ども会等で



中級指導者に求められるのは、安全管理・安全教育を総合的に広い視野で指導できる資質を身につけ、日常の子ども会活動において安全・安心面に配慮し、活動中に事故が発生しないよう日常生活直からも安全啓発の推進役を担うことです。

果たして自分は、求められる様な中級指導者になれるか不安ですが…。今回は受講者が少なかつたせいですが、アットホーム的な雰囲気の中で学べました。皆が積極的に発言し、全員が模擬実習を体験、前に立って発表しあうなど、とても充実した講習を受講できました。ありがとうございました。

# 第一回ジュニア・リーダー中級研修会

妙高市ジュニア・リーダー 荒井 心花

・期 日 令和四年七月二日  
 (土)～三日(日)

・会 場 国立妙高青少年自然の家

・参加者 生徒七名(馬嶋・齋木・荒井・今野・加藤・廣瀬・近藤)

私は、初めての中級研修で、さまざまな活動・体験をし、たくさんのごちを学びました。

例えば、危険予知トレーニングの活動では、イラストなどを見てどこに危険がひそんでいるかを見つけ、どうして危険なのかを考える活動をし、私たちの周りにどのような危険があるか予測し、それに対してどのような行動をするのが良いかを考えることの大切さを学びました。

また、心肺蘇生法では、人がたおれていた時に、どのような行動をとるべきか、そしてAEDの使い方や胸骨圧迫のやり方や注意点など、いざというときに人の命を救うために大切なことを学びました。

このような活動を通し、自身や周りの人の安全を守るために率先して行動することの大切さを学びました。

今回の中級研修会で学んだことを今後のJL活動に生かしていきたいです。



# 第二回ジュニアリーダー中級研修会

長岡市子連 加藤 愛実

・期 日 令和四年十月一日  
 (土)～二日(日)

・会 場 国立妙高青少年自然の家

・参加者 生徒五名(清水・馬嶋・荒井・加藤・今野)

私は今回の参加でファイヤー研修がすごく心に残りました。普段長岡でやるとき、私は教わる側のことが多かったのですが、レクを教える側に変わった今回はとても新鮮でした。

その一方で反省点も多くあります。一つ目がプログラムの締め方です。今回は少し唐突になってしまいました。締め方は普段言われるがままで、あまり詳しく考えたことがなかったのが今回の経験を機に引き出しの数を増やしていきたいです。

二つ目がレクの教え方です。時間が少ない中での練習、本番とはいえ、もう少し安心して前に出てもらえるような教え方があったのかなと思います。これからこのような場面は増えていくと思うので、教える力もどんどん磨いていきたいです。

今回をもって修了証をいただき、

中級への参加はこれで最後となりましたが、他地域のジュニアとの交流は発見も多くあり、とても楽しかったのでまたぜひ、今度は引率としてついていければと思います。  
 妙高のみんな、二日間ありがとうございました。





# 第四十九回関東甲信越静地区子ども会 ジュニア・リーダー研修会栃木大会

柏崎市子連 中学三年 金田 陽咲

・期 日 令和四年八月十九日  
(金) ～ 二十一日(日)

・会 場 栃木県立なす高原自然の家

・参加者 生徒五名(金田・松本・加藤・荒井・馬場) 大人五名

柏崎からの参加は私のみでした。心細く不安もありましたが、他県のリーダーの方はとても優しく、話しやすい空間を作ってくれて「さすがだな」と思いました。

私は班の副長を務めました。高校生が多く、話し合いの時なかなか自分の意見が言えませんが、アイスブレイクなどを通して年齢関係なく話すことができました。

私が一番学んだことは、相手の気持ちを考えられるということです。



アイスブレンクなどを企画するとき、誰もが分かりやすく楽しめるにはどうしたらいいかと考える場面が多くありました。自分で考えることも大切だけど、他の人の意見から学べるのが沢山あるなと思いました。

戻プロの活動で改めて仲間の大切さを実感しました。そしてどの活動も楽しく有意義な時間を過ごすことができました。

次は新潟県が会場となります。今回のような素晴らしい大会にするために、今回学んだことを取り入れ、許もが来しめて思いこに残る戻プロになるように、県のリーダー達と協力していきたいです。

# 令和四年度戻プロジェクトジュニア・リーダー 実行委員会(あゆみ)

## 第一回

・期 日 六月十九日(三)

・会 場 国立妙高青少年自然の家

・内 容 JIを含めた役員による計画案の作成

## 第二回

・期 日 七月十七日(日)

・会 場 柏崎市民プラザ

・内 容 Tシャツやチラシの作成

## 第三回

・期 日 八月二十八日(日)

・会 場 柏崎市民プラザ

・内 容 新潟大会の内容や役割の検討

## 第四回

・期 日 十月一日(土) ～ 二日(日)

・会 場 国立妙高青少年自然の家

・内 容 役員等による活動の見学

## 第五回

・期 日 十一月十三日(日)

・会 場 長岡市さいわいプラザ

・内 容 戻子連役員全員による役割等の確認



佐渡地区

楽しかった子ども会

八幡地区子ども育成会  
六年 大川 奏多

ぼくたちの地域では毎年、キャンプや夜相撲、樽みこしなどの行事が行われていましたが、新型コロナウイルスの影響で、昨年もほとんどしませんでした。しかし今年、キャンプのかわりに夏のお楽しみ会として、ウオーターサバゲーを行いました。

頭にかぶったフェイスシールドに金魚すくいを使うポイを取りつけ、チームに分かれて水鉄砲でうち合います。制限時間内、どれだけたくさん相手チームのポイをうちぬけるか、最後に自分のチームのポイがどれだけたくさん残っているかで勝敗が決まります。小さなポイをねらうのは難しかったです。チームのみんなと協力して戦いました。チームは一年生から六年生の全学年児童と地域の人たちがごちやまぜで、普段から一緒に過ごしているクラスの友達だけでなく、他のクラスの人たちや大人たちとも一緒に楽しむことができました。大人も子どもも全身体びよめれになって、みんなで楽しんだお楽しみ会は、ぼくにとても小学校生活最後の楽しい思い出

出になりました。

そして、九月に行う予定だった夜相撲と樽みこしは、今年も行わなかったが、今年も行うことを決めた。これは、来年こそいつも通りにいろいろな行事ができるように、みんながいつまでも元気でいられるようになど、たくさんお願いを込めて作りました。みんなが手形をとったり、絵やメッセージを言いつけたり、飾りつけをしました。みんなが本物のみこしをかつぐことができなかったのは残念だったけれど、自分たちで飾りつけをした世界にひとつだけのみこしが完成して、文化祭に飾ることができて嬉しかったです。

ぼくが住む八幡には、毎年続く素晴らしい行事がたくさんあります。ぼくはもう次年には中学生ですが、そんな素晴らしい行事がこれからもずっと続いていてくれるといいなと思います。



下越地区

一番の子ども会

胎内市高橋子ども会  
五年 川崎 羽雲

ぼくが一番心に残っている子ども会行事は、バーベキューです。

まず、バーベキューをする場所まで向かいました。到着したら、自分のドリンクをくんで、お肉をやって食べました。いろんなお肉をいっぱい食べて、とてもおいしかったです。わたあめやかき氷もあつたのでそれも食べました。おいしかったです。ドリンクもいっぱいのみました。おなががいっぱいになったので、となりの公園にあそびに行きました。ジャンブルジムやブランコ、すべり台がありました。いっぱいあそんでとても楽しかったです。

公園からかえってくると、ちよつとおなががすいていたのでお肉をまた食べました。そして、最後にもう一度遊びに行きました。友達といっぱいにおにごっこをして遊びました。楽しかったです。かえる時には、つかれてへとへとでした。またお肉を食べに行きたいと思いました。おいしかったです、楽しかったです。

最近ではコロナで行事が出来なくてさんなんだけど、今年はどこかにいきたいです。

子どもが少なくなってきた、来年から子ども会がなくなるかもしれないといわれたので思いこを作れたらいいなと思います。





上越地区

三年ぶりの時代まつり

柿崎区出羽浜風子ども会

五年 平野 美優羽

私の地域では、毎年、いろいろな行事が行われていました。が、コロナが流行し、ほとんどの行事がなくなっていました。でも、杵崎時代まつりは、三年ぶりにかいさいされました。水鉄砲大会や、屋台がひらかれました。その中で、私が一番心に残ったのは、プフパン作り、はし作りです。プフパンは、自分が好きなものを書いて、作って、はし作りは、初めてだったけど、かわいく、楽しく作ることができました。

楽しかったことは、ふくびぎで、あたらなかったことです。あたらた人は、すぐくうれしそうでした。また、ふくびぎをする機会があったら、ちようせんしたいと思います。屋台も、あまりたくさん種類はまわる「と」ができませんでした。また屋台があるおまつりの時など、家族のみんなと、楽しくまわりたいです。楽しみにしていた、二年ぶりの、時代まつりで、ふくびぎは、あたらなかったり、たくさんのお台にまわったり、プフパンを好きなように作ったり、はしを好きなように作ったり、

て、楽しく作る「と」ができてよかったです。

大変だったことは、はし作りです。木を、やすりなどで、けずったりして、はしの形にするのが大変でした。

たくさんの人たちが、朝も夜もきていて、「やつぱりみんな一年ぶりの時代まつりで、うれしんだなあ」と思いました。来年も、たくさん行事がやるといいなと思いました。

今も、コロナがおさまりそうにはないけど、今回の時代まつりを楽しむことができてよかったです。夏休み中の、楽しい思い出になりました。

二年間、コロナのえいきょうで時代まつりはできなかったけど、久々に、時代まつりができて、本当に、楽しかったです。これから、どんなことがあるかわからないけど、コロナに負けず、たくさん、楽しいことをしたいです。

夏休み中の、とつても楽しい、良い思い出ができて、よかったです。



中越地区

お楽しみディキャンプの思い出

長岡市青葉合二丁目子ども会

五年 小山 琴弓

私は、デンキャンプに参加しました。特に印象に残ったことが二つあります。

一つ目はサイレントです。サイレントは、声を出さずに、ジエスチャーで相手に伝えるゲームです。今回は、一月一日から十二月三十日までの誕生三の順に並びました。まちがえると、マイクで名前を言わないといけないので、ドキドキしていました。誕生日が同じ大人の人がいたので、心強かったです。うれしかったです。

二つ目は、キャンプファイヤーです。キャンプファイヤーでは、真ん中にある、大きな炎を参加者で囲み、歌ったりおどったりしました。最後に参加者が家で作ってきた折り紙を炎の中に人れました。その時に流れていた音楽と炎が、とても神秘的でした。ディキャンプに参加でき、とても楽しかったです。また参加したいと思いました。



編集後記

○令和五年八月には、関フロJL研修会(新潟大会)が国立妙高青少年自然の家を会場に開催されます。令和四年度は、役員とJLでその準備を進めてまいりました。コロナ禍ではありますが、役員、JL、会員が認識を共有しながら今後の活動を進めていきたいと思っております。皆さんのご協力をよろしくお願いいたします。  
○最後に、本たよりに原稿をお寄せいただきました皆様にも心より御礼申し上げます。(文責：板垣)

【編集発行】

一 版社団法人  
新潟県子ども会育成連合会  
〒951-8511  
新潟市中央区白山浦一三〇〇  
電話 〇二五-三三〇五九八  
FAX 〇二五-三三〇五九二